

アルドステロン(CLEIA)		7424101		
		担当部署		
アルドステロン		生化		
<b>検査オーダー</b>				
患者同意に関する要求事項		特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		特記事項なし		
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00		
<b>検体採取・搬送・保存</b>				
患者の事前準備事項		特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング		医師の指示があれば、指示どおり。		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 全血	10 青	分離剤	8	mL
2 -	-	-	-	-
3 -	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-
7 -	-	-	-	-
8 -	-	-	-	-
検体搬送条件		室温		
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		
<b>検査結果・報告</b>				

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		非原発性アルドステロン症患者から採取した検体を測定した結果、参考基準範囲（2.5～97.5パーセントイル値）は3.0～72.7 pg/mL ルミパルス アルドステロン試薬添付文書				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	pg/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
3	72.7	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		<p>新生児期に最も高値を示し、加齢とともに低下する。60 歳以上の男性や閉経後の女性では有意に低値を示す。</p> <p>た、ACTH の分泌調節を受けるために、早朝に高く、深夜に低いという日内変動を示す。</p> <p>一方、レニン・アンジオテンシン系の分泌調節を受けるために立位で高値、高食塩食摂取下では低値を示す。</p> <p>さらに黄体期や妊娠中には卵胞期の 2～4 倍に増加し、性周期の影響も受ける。</p>				
臨床的意義		<p>アルドステロンは副腎皮質球状層で産生・分泌される最も強力な鉱質コルチコイドであり、電解質の恒常性・循環血液量・血圧の維持に重要な役割を果たしています。</p> <p>アルドステロンの分泌はレニン-アンジオテンシン系、ACTH、血中カリウム濃度によって調整されています。</p> <p>アルドステロンの測定は原発性アルドステロン症をはじめとした高血圧疾患、腎疾患、浮腫性疾患などの診断・鑑別に有用です。</p> <p>本試薬は化学発光基質（AMPDP）を用いた化学発光酵素免疫測定法（CLEIA；chemiluminescent enzyme immunoassay）に基づく試薬です。</p> <p>ルミパルス アルドステロン試薬添付文書</p>				